

国際ロータリー第2560地区  
ガバナーテーマ

「楽しいロータリーで  
つながろう」

高田ロータリー今年の  
スローガン

「地域、次世代と共に、  
明るく!楽しく!!朗らか!!!に  
奉仕を実践しよう」



2019～2020年度

国際ロータリー会長 マーク・ダニエル・マローニー  
2560地区ガバナー 大谷 光夫  
高田ロータリー会長 高坂 光一  
幹事 高橋 正彦

事務局:新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号  
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534  
メールアドレス: takadarc@joetsu.ne.jp  
例会場: デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員  
加藤 公一 宮川 大樹 藤林 陽三 山田 守  
木村 隆

## 第11回例会 ■ 9月27日(金)

No. 11

### 会長挨拶 ● 高坂 光一

#### 秋ですね



空は、日を追うごとにその高さを増しているように感じます。

子供の頃、親に叱られながら自宅の屋根で眺めていた星空、その癖はどうやらいまも直らないらしく、昼夜問わずにふと空を見上げています。もちろん雲や星を眺めるのも楽しいですが、格好をつければ「時間と触れ合っている」ように思います。

秋分を過ぎて少しずつ遅くなる夜明けに輝く冬の大三角形を構成するペテルギウスは約640年前、室町三代将軍足利義満が全盛を奮っていた頃の光、こぐま座プロキオンは約12年前、全天一明るく見える恒星シリウスは約9年前…それぞれ違う時間を一度に触れられる不思議さはこの歳になっても益々深まるばかりです。

宇宙といえば小惑星探査機「はやぶさ2」が昨年から今年にかけて話題になりました。その前身で2010年に地球帰還突入し全世界に感動を与えた「はやぶさ」プロジェクトのリーダーは、現在米沢上杉RCの名誉会員で上杉家十七代目御当主の上杉邦憲氏です。何度かお会いしましたがRCに入らなければ会えなかった方の一人です。なにか不思議なご縁を感じてしまいます。

はやぶさ2は年内の帰還指令待機中、彼が今このとき、どんな星を眺めているのか、地球は?太

陽は?想像するだけでも楽しくなります。

### 出席報告

出席率 98.11%

### メイクアップ

大谷光夫君 (9/17 新潟中央 RC 公式訪問、9/24 栃尾 RC 公式訪問)  
大谷光夫君・橋詰敏一君 (9/18 水原 RC・豊栄 RC 公式訪問、9/28 第3分区 IM)  
大谷光夫君・齋藤尚明君 (9/25 長岡東 RC 公式訪問)  
大谷光夫君・本山秀樹君 (9/26 新発田中央 RC・新発田城南 RC 公式訪問、9/27 吉田 RC 公式訪問)  
高坂光一君・高橋正彦君・羽深耕時君・遠藤 巖君・石倉 悟君・牧野章一君・本山秀樹君・高橋俊宣君・水上喜芳君・大島 誠君・堀井靖功君・中田正君・佐藤教彦君・羽深元悟君・加藤公一君・飯塚宏佳君・内山 徹君 (9/28 第7分区 IM)

### セレモニー

ロータリー財団ポールハリスフェロー表彰  
高橋俊宣君・羽深耕時君・佐藤 信君・チャールズ・C・ストラットン君  
米山功労者表彰  
田中正人君・石田誠夫君・山田吉徳君・澤井祥典君・高坂光一君

## 委員会報告

出席・ニコニコBOX委員会

橋本眞孝君——この度、地域の拠点となる「上越総合福祉センター」の大改造工事が無事完了し竣工しました。皆様のお陰です。今後ともよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

加藤公一君——先般22日長男の婚儀、ザ・グランスイートにて無事すませることが出来ました。ご協力賜りました全ての方々に感謝しつつ、スマイル致します。

葛西 弘君——この度10月1日付で新潟支店に転勤を命じられました。短い期間ではありましたが高田ロータリークラブの皆様には大

変お世話になりました。見つけた時に(おい)と呼んでいただければ幸いです。私もどこで会っても挨拶をさせていただきます。ありがとうございました。合掌

ロータリー財団委員会——寄付のお願い

## 会員インフォメーション

木村 隆君——10/13 前島密翁没後100年記念講演会のご案内

## 幹事報告

配布物：週報No.10

回覧：会員推薦カード

報告：九州北部豪雨義捐金募金のお願い

## 卓話 闇市 ～皆が平等 都会のオアシス～



東京の街を歩いているとガード下や線路の脇などに古びた一杯飲み屋などが並ぶ一帯を見つけることがある。これらの多くは、終戦直後の闇(ヤミ)市の生き残りである。終戦直後に食糧が不足し、米などの自由な取引が禁止されていた時代、非合法ながらも、当時の人々が飢えをしのぐために利用した市場が闇市だ。

大学時代、CDショップ目当てに通っていたのが吉祥寺だ。いつものようにその街を歩いていたある日、視界に黒い影が入った。目をやると道幅1.5メートルほどの路地があった。それが「ハモニカ横丁」との出会いだった。薄暗かったので最初は尻込みしていたが、いつしか足を踏み入れるようになった。

ある日、飲み屋の従業員から、横丁が戦後の闇市がもとになっていると聞いた。現在30歳の自

株式会社井上商会 井上 健一郎様

分は終戦後の闇市を見たことはないし、闇市的な伝統とは縁遠い地方都市の郊外で育った。そんな私にとって「闇市」の流れをくむ空間は、とても魅力的だった。

横丁にいと、狭くて人と人との距離が近いせいか、知らない人ともちょっとしたことがきっかけで会話が始まる。いつの間にか、どこの誰だか知らない客同士でドラマの一コマが始まる。横丁では大学教授だろうとフリーターだろうと誰もが平等。普段の自分の「所属先」を忘れ、解放感のオアシスだ。

いま東京の横丁は再開発により次々に姿を消しつつある。様々な法規制の中で、それを押しとどめるのは難しい。次世代は「闇市」の雰囲気を受け継ぐ横丁の魅力を味わえなくなると思うと少し気の毒に思う。

## 第7分区IMが開催される

9月28日(土)第7分区のIMが、椿井ガバナー補佐主催により糸魚川中央RCがホストを務め、「ホテル國富アネックス」を会場に盛大に開催されました。今年初めての試みとしてパネルディスカッションが行われ、当クラブからは17名が参加しました。

